

イエスは主なり

日本クリスチャン・アシュラム連盟



# 日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 178号

## 「明け渡すことの恵み」

ローマ書 8 章 28 節

鮫島 則雄



こちらの教会に転任を許されたその年、神学生時代の恩師・鍋倉勲師から「九州アシュラム」への参加を促され、初めて第43回九州アシュラムに参加しました。

神学生時代に奉仕していた鳥飼教会の毎週の主日礼拝時に、鍋倉先生が指三本を突き出してなにやらサインらしきことを続けておられたのを、放送室から胡散臭げに眺めつつメッセージを録音していました。九州アシュラムに参加して、あのサインはアシュラム運動の合言葉「イエスは主なり!」のサインであったことを教えられた次第です。

2日間の充実した祈りと交わりを終え、帰宅しようとしている私に、九州アシュラム委員長の鍋倉先生と事務局長の岡山敦彦先生（現委員長）から呼ばれて行きましたら、岡山先生が教団（日本同盟基督教団）の人事異動で、現任地を離れることになるので、次期事務局長を引き受けるようにとの事…恩師の要請は命令?に等しく、何が何やら分からぬままに事務局を引き受けることになりました。

翌年の44回から裏方に徹していく中、助言者の助言やファミリー内の恵みの交わりにもほとんど与かれないのですが、連鎖祈禱の祈禱ノートを見るたびに、主は尊い時間と財を聖別して参加された方々の祈りを実に見事に聞いて下さっていることを知り、ただただ御名を崇めるばかりです。

主は参加された方々の祈りを聞いてくださり、万事を益とし給う主の全知全能の御業を毎年見せてもらっています。毎年と言っていいほど、献身者も起こされています。

私が現在の教会に赴任したことも、前年に参加した門司港教会の会員たちの祈りが聞かれた結果でもあり、また私の個人的な願いも聞かれた結果だということを教えられました。母が前任地・人吉教会（熊本）で一緒に暮らすようになったのですが、転任の促しがあったとき「九州内なら一緒に行く。九州から出るようなら長兄の所（東京）に行く」でした。主は門司港教会員の祈りと母の願いを聞き入れ、九州の北端・門司港教会に導いて下さいました。そして母はダイサービス仲間の姉妹から導かれ、95歳でバプテスマの恵みに与かり、98歳になった2014年7月に、私たち夫婦に両手を握られ、笑顔の中で主の御許に召されていきました。祈禱ノートに記していなかったのですが、主は私の魂の叫びに見事に応えてくださったのです。ハレルヤ!

（日本バプテスト連盟・門司港キリスト教会牧師）

## 霊 想



「主と交わり、共に喜ぶ」

日本基督教団

東京新生教会協力牧師

横山 義孝

一、交わりの本質

E・スタンレージョンズ師の小冊子ガイド「アシラムとは何か」の冒頭には「使徒行伝に書き記された交わりを教会に取り戻したいとの願から、今日まで多くのグループ活動が起こった。このコイノニアは聖霊の降臨によって生まれた。これは階級、人種、年齢、性別などの凡ての垣根を越えて緊密に編まれた交わり＝霊交である。・コイノニアが魂であってそこから体なる教会が成長する。コイノニアの在るところに教会があるのであって、交わりを持たない所には組織はあっても教会はないのである。」とあります。本テキストの意図するところはこのコイノニアそのものにあります。

①その第一は父並イエス・キリストご自身との交わりです。これは私達と神ご自身との縦の交わりです。神

は天地創造をもって万物を存在させ、特に六日目にはご自身に似せて人間を創造し他の被造物の凡てを支配せよと仰せになりました。それは人との交わりを通してご自身の愛と義と聖なる神の栄光を現させようとしたのです。」

人間の最大の使命は三位一体の神との聖なる交わりを、祈りと信仰により保つことによつて神ご自身の栄光を明らかにすることにあつたのです。ところが人間は罪をおかして神に反逆しその栄光ある特権を失う結果になつたのです、人類の墮落です。しかし神は愛の故に罪を犯した人間をその滅びから救うために、御子イエス・キリストを世に遣わし、十字架の贖いのみ業によつてその罪を赦し、もう一度神の民としての恵みに迎え入れて下さつたばかりでなく、聖霊を注いで父なる神との清き交わりに迎え入れてくださったのです。教会の頭である御子イエス・キリストこそ、私達の神との交わりの中心です。(コロサイ一・十七・十八)

②神は光であり、闇が全くない。この神との交わりに於いて最も大切な事は、信仰の實際生活に於いて神が光の中におられるように嘘偽りの無い光の中を歩むということである。「私達が神との交わりをしていると言いがら闇の中を歩むならそれはうそをついているのであり、真

理を行っておりません」(Iヨハネ一・六)「しかし神が光の中におられるように、私達が光の中を歩むなら互に交わりを持ち御子イエスの血によつてあらゆる罪から清められます。」(同七)とあります。ここに私達と神との交わりの根源があるのです。

二、信徒相互が分かち合う横の交わり、第二は、私達信徒相互の横の交わりです。①神様との縦の交わりと私達の横の交わりとが同時に持たれる事にこそ、私達キリスト者の交わりの特徴があります。神との交わりは恵みを頂き、その恩寵に感謝して応答することにあります。信徒相互の横の交わりは、良きものを分かち合う、共同分担、共同享受、同一のもを分かち合うことにあります。私達はアシラムに於いて、兄弟姉妹相互の成功、失敗、悲しみ、悩みを分かち合い、受けた恵みや、悔い改めによつて与えられた神よりの祝福をわかち合う交わりの中で、改めてイエス・キリストの十字架のみ苦しみを感謝し、同時に私たちもその主のみ苦しみに預かることを感謝するのです。②寄贈、寄付、援助の交わりについてパウロは、マケドニヤ州、アカヤ州の人々のエルサレムの聖徒達への物質的援助をロマの教会に報告しています。(ロマ十五・二十六)

三、十字架の清めに与る交わり  
教会における最も大切な交わりは、イエス・キリストご自身の十字架の血によつてその清めに与ることです。(Iヨハネ一・八、九)ヨハネはこの手紙の中で教会の交わりの中に忍び込む様々なサタンへの働きを指摘しています。①「神を知っていると」言いながら神の掟を守らない者」(2・4)②「光の中に居る」と言いながら兄弟を憎む者」(2・9)③「肉の欲、目の欲、生活の驕り」(2・16)④イエスのこと(受肉のイエス)を公に言い表さない霊は・反キリストの霊です」(4・3)もし私達がこのような清き交わりを裂く罪の誘惑を認知したならば直ちに主の面前に悔い改め、十字架の御血によつて清めて頂くことが出来るのです。キリストイエスを中心とした真実の交わりこそ、教会を教会たらしめる唯一の源泉です。共に歩みましょう。ハレルヤ。

## 立 証

「美しい神様の計画」

函館栄光キリスト教会

小橋 由実

私はものづくりが大好きで、十代の頃から陶芸を習っていました。将来作家になる事を志し、自分なりの全力で取り組んでいました。そこで片山由美子姉と出会い、26歳でキリ

スト教徒となったのですが、当時結婚していた夫婦間の事情から陶芸の一切を辞めました。その頃の私にとつて、陶芸制作は自分を表現する手段でしたので、心の一部を失った様な喪失感を今でも覚えています。でも当時、私はギャラリーに勤務しており、陶器や美しい工芸品に囲まれながらの仕事がありましたので、なんとか自分を慰め、納得させる事が出来ました。そこでの素晴らしい作家達やお客様との触れ合いは、私にとつて本当に幸せな時間で、私はいつの間にか接客を通した「サービスマン」を天職と思うようになりました。何よりも、いつも心からの笑顔でいる事ができたのです。

しかし、様々な事情から30歳で離婚する事となり、自分の生活を立てる事が必要となりましたので、6年間勤務したギャラリーを辞め、新たな職を探さねばならなくなりました。(ギャラリーはパート勤務だったので、生活する収入が得られない為です)。食べていく事を優先し、また一つ大切なものを捨てなければならぬのだと諦めの気持ち、悲しみでとても落ち込みました。

そんな私に神様は、知的障がい者支援施設「の」の仕事を示されました。知人を通しての紹介で、内容は厨房の調理人という事でした。決して自分の望む充実の仕事とは思えませんが、

でしたが、生活の為に割り切つて勤める事を決意しました。ところが面接の結果、私に与えられることとなったポジションは「陶芸担当の支援員」だったので。

早いもので、その転機の日から4年近くが経ちました。現在私は11名の方たちに陶芸の支援をしています。その方たちと制作した作品を、年に一度、大きな公募展に出品する事を自分の目標のひとつとして取り組んでいます。そして昨年、今年と連続して大賞を受賞することが出来ました。私一人で制作し受賞するよりも、はるかに大きな喜びを神様は与えて下さりました。その時、ふと気づいたのです。今私は、障がい者の方たちに「充実した日中活動の支援を提供する」という最高のサービスマンに従事しているのだと。以前諦めの気持ちで捨ててしまっていた「陶芸」そして「サービスマンの仕事」。神様はその二つをお返し下さっただけではなく、大きな祝福を加えて新たに与え下さったのです。

コヘレトの言葉3:11「神のなさることは、すべて時にかなって美しい。

人生の歩みの中では喜びの時も悲しみの時もあります。私は恥ずかしいくらい信仰が薄い者ですから、困難の時は何の意味も見いだせず、神様に泣きつくことしか出来ませんが、

でした。しかし今考えると、全てが時にかなって美しい神様のご計画であった事を、感謝して告白いたしました。

**連盟六十周年**

**記念事業についての報告**

総務主事 石井 寛

二〇一五年。日本クリスチャン・アシユラム連盟が創設されて本年は六十周年を迎えます。昨年より皆様にはそのため「記念事業」のご協力をお願いしてまいりました。それらは次のとおりであります。

1. 六十周年記念誌作成。
2. アメリカよりアン・マシューズ女史(E・スタンレー・ジョーンズ師の孫娘)を迎え、全国アシユラムを開催する。
3. 全国アシユラムに合わせ全国理事会を開催する。

これらについて現状を報告いたします。

**1. 記念誌作成**

昨年三月締め、現在専門家による文字校正が始まりました。これからレイアウト、デザインと進め、春には印刷完成へと進めてまいります。内容は連盟関連だけでなく報告

各地で続けられている地域アシユラムがいくつもあることを知り、寄稿をお願いし掲載されております。また、メッセージからアシユラムの

原則、証し、そして各地のアシユラムの紹介、さらに年表、写真が豊富に掲載されております。ご期待ください。

**2. アン・マシューズ女史招聘**

アシユラム運動の大きな流れの「日本クリスチャン・アシユラム連盟」と「近江アシユラムセンター」と共同して、E・スタンレー・ジョーンズ師の孫娘、アン・マシューズ女史(E・スタンレー財団理事長、心理学博士、ウェスレー神学大学神学修士号・博士号取得者)を日本にお招きし、それぞれの働きの中でお証しとメッセージを語っていただきます。連盟としては来る九月二十一日(二十三日)に箱根で開催します「関東アシユラム」を「全国アシユラム」に変えて予定しています。また事務局でもあります池の上キリスト教会の礼拝で証しと奨励をしていただく予定です。

**3. 全国理事会開催**

二年に一回開催されます全国理事会を全国アシユラムに合わせ招集いたします。連盟には理事長、副理事長、書記、常任理事、地区代表理事、推薦理事等現在十三名の構成となっております。さらにアシユラム運動が広がることを折りとし、運営して

います。以上のように記念事業のためにご献金をお願いしておりますが、現在

総予算二五〇万円のうち、すでに一四〇万円が与えられております。残りも必ず備えられることを信じ、祈っております。必要経費の概略を次に記します。

1. 六十周年記念誌作成費 一五〇万円 (作成・校正・印刷・製本等)
2. アン・マシューズ女史関連 五〇万円 (旅費・滞在費・通訳等・アシラムセンターと折半額)
3. 九月開催予定全国理事会経費 五〇万円 (全国理事旅費および宿泊費)

なお、尊いご献金をお寄せくださいました方々には記念誌完成のお礼、これを発送させていただきます、感謝を表わしたく思いますのでご理解ください。また、この記念誌が多くのところで用いられますよう、必要部数がございますら事務局までご連絡いただきたくお願いいたします。

### 第六回函館栄光キリスト教会

#### ミニ・アシラム報告

佐々木 雄次

当教会のミニ・アシラムは、一〇月一二、一三日、「喜びの満ちあふれる生活」を主題に、助言者として横山義孝師をお迎えし、三五名



(うち他教会からは六教会、一名)が参加し、感謝に満ちた集会となりました。

「福音の時」、横山師はヨハネの手紙一とコロサイ書に基づきクリスマスチャンの喜ばしい生活とはいかなるものであるか、スタンレー・ジョーンズ師やご自身の体験を交え、わかりやすく説き明かしてくださいました。特に強調されたのは、キリストに対する明け渡し(サレンダー)の大切さであったと思います。わたしたち人間は「自分が、自分が」という思いで生きているが、その心が打ち砕かれ、キリストに降伏し、万事をお委ねする時に、全く新しい生活が始まる。そして、その時わたした

ちに求められるのは、正直であることだと、ザアカイを例にとつて、自分がどんなに恥ずかしい者であつても、それを正直に御前にさらけ出さなければならぬことを指摘されました。

一日目最後のプログラム「賛美と証しの時(ファミリアワー)」には、救世軍の木村敏行小隊長夫人の照子師と七飯(ななえ)福音キリスト教会会員で、チーフ・キリスト教学園(不登校のお子さんも受け入れる、キリスト教主義のフリースクール)校長庄司信雄兄が証しされました。木村照子師は、献身された前後の時期のことや、伝道者として、また、家庭人として味わった辛い事件を御言葉によって乗り切ることができたことをお語りになり、また、庄司兄は一年半ほど在籍した少年とその母親の葛藤と変化について話され、結局、わたしたちの救いというものは、神さまの前に憩えること、神さまを礼拝できている、ということに尽きるのでないか、とお語りになりました。ファミリアワーは、聖歌隊の賛美のほか、ハーモニカの演奏や詩吟による賛美、また、皆で体操をするなど、ほんとうに楽しい時でした。

会を締めくくる「充滿の時」には、多くの証しがなされ、皆で輪になり、手を取り合つて「歌いつつ歩まん」

を賛美し、感謝の祈りをもって閉会いたしました。

### 地区アシラム予告

#### ●第46回城北アシラム

とき 15年2月11日(水休日)  
会場・日本ホーリネス教団池の上キリスト教会

#### ●第21回東京新生教会アシラム

とき 15年2月14(土)15(日)  
立証者 三木勝喜兄(池の上教会員)

#### ▼新刊図書紹介

「信仰の眼で読み解く絵画」IV

岡山 敦彦 著

問い合わせは大分恵みキリスト教会  
岡山牧師へ (tel.097-522-2768)



〒一八一〇〇一一 三鷹市井口3-15-6  
池の上キリスト教会内  
日本キリスト教連盟  
振替口座 東京〇〇一〇〇一四五五八